

第9号

# ほっとほ〜む

<発行> 社会福祉法人 大阪福祉事業財団 高鷲学園 072 - 953 - 3881 FAX 072 - 953 - 3882  
 <発行責任者> 園長 瀬川 佳成 Eメールアドレス takawashi@miracle.ocn.ne.jp  
 〒583 - 0885 大阪府羽曳野市南恵我之荘2丁目6番20号

## 第47回たかわしこどもまつり開催

# つながろう！ 元気なこどもたち



たくさんのお客さんの前で練習してきた歌を披露する小学生

今年も昨年に続き6月5日の日曜日に第47回たかわしこどもまつりを開催しました。当日は絶好の祭り日和の中、昨年よりも多くの約2500名が来場し、大盛況となりました。

模擬店では、焼きそばやフランクフルト、焼き鳥などなど地域の団体による出店がありました。学園からも恒例の手作りパウンドケーキとカレーを販売し、お昼時には大変賑わいました。子どももの広場では手作りおもちゃやスーパースポーツ、紙芝居の読み聞かせ等があり、多くの子どもたちが思い思いの楽しみ方で時間を過ごしていました。

中央舞台では、地域の中学校の吹奏楽部による演奏や、子どもたちの歌、新体操、お囃子、ヒーローショーに太鼓と今年も多くの団体の参加によりバラエティーに富んだ出し物が出来ました。

今年も東北大地震があり、テーマを募集した結果「つながろう！元気なこどもたち」に決めました。募金箱を置き、係の職員はチャリティーTシャツを購入し、当日着ました。中でもテーマに

合った出し物がしたいと、保育園の職員での踊りは会場にいた子どもたちみんなが、輪を作り踊っていてとても印象的でした。

今年も多くの地域の団体の方々による出店や出演、協賛により子どもまつりをたくさんの子どもの笑顔とともに終えることが出来ました。皆さんとのつながりを大切にしながら今後子どもまつりをつづけていけたらと思っています。



(まつり事務局 若林 康一)

# 今日の特集

## 児童養護施設の 今おかれて いる状況

みなさんは、タイガーマスク運動を覚えていますか？養護施設に入所している子どもたちに、ランドセルの贈り物。社会的にも注目を浴び、児童養護施設ってどんな所なの？と興味を持って頂けた方も多くいたと思います。今回は、もっと児童養護施設の現状を知って頂こうと思い、特集をくみました。児童養護施設と最低基準について、また東日本大震災をうけて高鷲学園での取り組みを紹介しようと思います。

### 大人の人数 職員配置

児童養護施設は、家庭での養育が困難な子どもたちが生活している施設です。施設の形態は大きく



小舎制と、大舎制に分かれます。高鷲学園は、2歳から18歳までの子どもたち110名定員で大舎制の施設と言えます。児童養護施設職員の定数は、小学校1年生から高校3年生までは子ども6人に対して1人、3歳から6歳までの子どもは4人に対して1人、乳児は

2人に1人という配置です。学童の場合、30人の子どもに5人の職員となりますが、これは24時間365日休まずに働いたとしての人数です。当然、そんなことは出来はずもなく、高鷲学園でも大体30人くらいの子どもの6人から7人の職員にしています。それでも、朝2人、昼2人、夜2人の職員が30人の子どもを交代で見えており、子ども1人1人に手厚い関わりを求められても、出来ない歯がゆさを日々感じているのが現状です。

このような、職員の数や部屋の広さ、お風呂の回数等を決めているのが「最低基準」というもので、この「最低基準」に則ってこの施設も職員配置や子どもの生活を考えています。今の基準では子どもたちに十分な支援が出来ないと長年職員も声をあげて来ましたが、タイガーマスク運動の影響もあつてか、1948年以来一度も変わることもなかった最低基準が、この度の児童福祉法の改正により変わるうとしています。児童福祉法第45条の「厚生労働大臣は、児童福祉施設の設備及び運営並びに里

親の行う養育について、最低基準を定めなければならない」とされていたのが、「児童福祉施設の設備及び運営」については、「都道府県」が「条例で基準」を定めるものとして、規定されました。つまり、今まで国が決めていた「基準」を都道府県で決めてください、というものです。今後、子どもたちが入所する施設の場所や都道府県によって差が出てくるのが危険されます。

どこの都道府県であっても、子どもたちに差はありません。みんなが傷つき、児童養護施設にたどり着き、安心した生活と大人との関わりを求めています。しかし、施設の定員数や場所によって格差が生じることはとても残念なことです。施設の小規模化を進める国の流れの中、最低基準が条例化され、高鷲学園のように大舎制の施設が、今後どのように変化していくべきなのか、子どもたちが安心して生活していくためにどのような施設づくりをしていくのかをしっかりと考えなければならぬとこるにきています。

# 東日本大震災と高鷲学園



傷ついたり子どもたちを社会がどう育てていくのか。ということも強く意識する出来事がありました。東日本大震災です。この震災で保護者を亡くした子ども(震災孤児)は約150人います。その大半が親戚や身内の人に引き取られていきましたが、2人の子どもたちが児童養護施設に入所しました。大切な人を亡くした子どもたちの心の傷の深さは、学園の子どもたちと生

活している中で、これでもかという程感じます。心に大きな傷を負った子どもたちに寄り添い、その傷を癒し、心の安定を取り戻すことはとても難しく、大変な道のりです。しかし、その子どもたちをケアし、心も体も安心して生活できるようにするために一緒に歩んでいくのも私たちの役割だと感じています。

高鷲学園の子どもたちは、ちょうど学校の授業中にこの地震の微動を感じ、帰園した後、東北で大きな地震が起きたということを知りました。ニュースで流れる津波の映像や、新聞に掲載される日々増えていく死者、行方不明者の数を見て、「地震」をほとんど体験したことのない子どもたちが、大変な事が起こった、地震や津波がとてもこわい、東北の人たちは困っていることを体で感じていたようです。

地震が起こってから数日後、「関西の電気を節電することで東北の人たちにその分の電気を送れる。」という話を聞いた子どもたちが、次の日の朝、電気を全

部消した食堂で朝ごはんを食べる子どもたちがいました。「節電せなあかんで。」と言う子どもたちの声も聞こえてきました。その日1日、薄暗い中で過ごした子どもたち。その日の夜、「東北の人に今日は学園からいっぱい電気を送れたな。」とうれしそうな顔で話す子どもを見て、温かい気持ちになりました。

学園でも、被災地の人たちに何か出来ないかと考え、募金をする事になりました。さっそく子どもたちに呼びかけました。それぞれ、自分のお財布の中身を考え、「円する!」と言ってくれたり、日頃、お小遣いをすぐに使ってしまう子ども「今月お小遣いもう使ってしまったから、来月にしてもいい?」と聞いてくる子どももいました。今までたくさん傷ついてきた子どもたちです。自分が生きていくことに精一杯で、人の痛みに寄り添うことは難しいのではないかと思っていました。しかしこの震災を通して、この子どもたちの中に困っている人がいたら助けたいという優しい心がすっかりと育っている

と実感しました。被災地の人たち



にこの子どもたちの思いが届きますようにと願っています。

学園で生活する子、被災地で踏ん張っている子、これからの社会を生きていく子、みんな未来を創っていく子どもたちです。そんな子どもたちに今、大人が、国が、どれだけの力を注げるのか、私たち大人みんなで考えていくべきことではないでしょうか。

(学童ブロック 岡出 多申  
学童ブロック 鈴木 可奈)



**寄付金・寄贈をいただいた方**  
 (2011年3月21日~6月30日)  
**ありがとうございます。**  
 (敬称略)

**寄付金**

Y・M(羽曳野市)  
 K・U(羽曳野市)  
 匿名の方

**寄贈**

大阪電業協会(図書券)  
 堀内米穀店(餅)  
 ル・プティ・パン・ドウ・フシミヤ(パン)  
 水明堂(じゃんぼどら焼き)  
 ムーンバット(傘・帽子)  
 T・K(野菜)  
 ミキシングイノベーション(野菜)  
 真銅義夫(ぶどう)

**招待**

K・U(食事)  
 オリックス財団(野球観戦)  
 (株)ガンバ大阪(サッカー観戦)

**財団後援会の更新  
 入会のお願い**

会員の皆さん、いつも子どもたちにあたたい御支援をありがとうございます。  
 皆さんの力で、高鷲学園を支えて下さい。新しく会員となつてくださる方を広く募集しております。新年度となり、既に会員の皆さんは更新をよろしく願います。  
 一口年間3000円です。

**調理ブロック**

**愛情を込めて**



高鷲学園では現在幼稚園生8名、中高生33名の計41名が毎日お弁当を持って行っています。毎日朝の5時半から2人の調理職員で朝食と41人分のお弁当のおかず4品を作っています。グラタン、ハンバーグ、オムライス等手作りのおかずを基本とし栄養面や色彩を工夫しています。チエックのカップや可愛いバランスを使って色彩豊かなお弁当を作っています。  
 自分たちでお弁当を詰める高校生には見栄えがよくなる詰め方を教えたり、子どもたちにお弁当アンケートをとって子どもたちの意見も取り入れるようにしています。  
 毎朝「おはよう」「毎日ありがとう」「おいしいで」とお弁当を取りに来る子どもたちの声を励みにし、これからも、子どもたちに喜んでもらえるようなお弁当づくりをしたいと思います。  
 (調理ブロック 永田 和子)



**新しい仲間**

初代看護師として採用された門田です。慣れない業務に年齢を痛感しております。施設での私の役割とは？自問自答しながら、出来ることからやっていきたいです。  
 (看護師 門田 満知子)

以前働いていた保育所での経験を活かしながら、子どもたちが安心できる大人として、心のよりどころとなるように関わっていかれたらと思います。  
 (幼児ブロック 鎌谷 記帆)

初めまして、丸岡優です。高鷲学園に来て様々なことを学ばせて頂いています。どこかでお会いしましたら、宜しくお願います。  
 (学童ブロック 丸岡 優)

4月から高鷲学園の一員になりました。まだまだわからないことばかりですが、子どもたちと共に日々成長できるような頑張ります！  
 (学童ブロック 伊藤 舞桂)



**ほっとほひとこと**

6月12日に近隣の方より、日々草の花の寄贈を頂きました。約200株ある花を、子どもたちが花を大切に育てる心を持ってもらいたいという思いから、子どもたちと一緒に事務所前の花壇に植えました。色とりどりの花を見てみると、ほっと心が休まるような気持ちになりました。  
 (辻本 成祐)